ねぶたがないと夏じゃない！
保健大学 納涼祭　活動報告

新たな出会いと経験に心躍らせるキャンパスライフ。今年は、コロナ禍のために大きく制限され、

特に１年生は、サークル活動への参加もできず、先輩や同級生とのふれあいもほとんどないまま前期の授業が終わろうとしていました。青森ねぶた祭りや学生がボランティアとして参加する“じょっぱり隊”の活動も中止となり、大きな「ロス」を抱えての夏休み直前！

やっぱり、夏といえば「ねぶた」だ！　そうだ！夏祭りやろう！

一部の学生たちが、3年生リーダーの下、1年生を中心に実行委員会を結成。

「保健大学 納涼祭 ～ねぶたがないと夏じゃない！～」と銘打って、急遽、猛スピードで企画検討開始。

？？　とは言っても、「コロナウィルス対策」どうしよう　？？

そこで、実行委員会では、「新しい生活様式の実践例を参考とした開催ガイドライン」を策定し、併せてヘルスプロモーション戦略研究センター長に講師をお願いし、事前に感染症対策の講義を受けました。

「感染とは？」「なぜ対策が困難なの？」等々、感染に関する基礎知識やイベントを適切に実施するための考え方、そして、専門職としての必要な保健行動をしっかり学びました。

令和2年8月4日、天候にも恵まれ、新しい生活様式版による**納涼祭**がスタートしました。

「金魚ねぶた・うちわ製作のワークショップ」、「かき氷・からあげ等の出店」、「サークル紹介」等々・・・。

中でもイベントの目玉である「ねぶた運行」は、**☆新型コロナウィルスを吹き飛ばせ！☆**の願いを込めて制作された、その名も**「鬼花火」**。ねぶた製作者と囃方の御協力もあり、勇ましいねぶた、囃子方が奏でる笛・金の音色と地響きのごとく力強い太鼓のリズムに、学生たちの**“ラッセラー、ラッセラー”**という元気な掛け声が交じり合い、その場にいる全員の心を魅了し、笑顔にしていました。また、日頃、意識して離していた「人と人の距離」が一気に近づいたひとときでした。

御協力いただいた関係者の皆さま、本当にありがとうございました。

実行委員長：山形出身の私が、この２年間「じょっぱり隊」の参加を通して、ねぶたが持つ素晴らしさ、青森市民の熱気、誇りを肌で感じてきました。「ねぶた祭」は中止となりましたが、どうにかして、本学で半数以上を占める県外出身者にも、「青森のすばらしさ」を味わってほしいという思いがありました。そんな時、「学生を元気づけられる行事はできないか？」副学長の一声で、一気に「夏祭りやろう！」と有志が集まってくれ、企画を練りました。広報として、お隣の安生園さんを訪問したところ、ねぶたを手配していただけることとなり、それからとんとん拍子で進み、開催に至りました。地域内における「信頼に裏打ちされた人と人の繋がり」を実感しました。実行委員の皆さん、御協力いただいた関係者の皆さまには、この場をお借りして御礼申し上げます。

実行委員：「楽しかった！」サプライズのねぶたには興奮しました。入学してから初めてここまで先輩方と深く交流を持つ機会を持てて嬉しかったです。皆さん、臨機応変に行動できる能力が高いなとも感じました。

実行委員：限られた時間や制限の中での活動ではあったものの、みんなで協力し合いながら、臨機応変に対応できたと思う。最後は、自ら跳人に参加して、とても思い出に残る貴重な体験をすることができた。

御協力いただいた皆様　◆（株）番地銘石様
◆養護老人ホーム安生園様　◆青森菱友会囃子方様
◆（株）ツクリダス様　◆鈴木商店様　◆（株）城ヶ倉観光様
◆特別養護老人ホーム清風荘様